

作成日 2021 年 3 月 13 日
(最終更新日 2026 年 1 月 9 日)

「情報公開文書」 (Web ページ掲載用)

受付番号 : 2025-1-940

課題名 : 臨床研究中核病院における慢性腎臓病発症・進展の危険因子探索のためのデータベース研究 : 臨床研究中核病院間共同研究

1. 研究の対象

2010 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日に当院または 7. 研究組織に記載の機関の外来および入院で診療を受けた 18 歳以上の患者さん (最初の測定の時点で 18 歳以上の方に限る) で、上記の期間において少なくとも 1 度血清クレアチニンの測定を行っている方

2. 研究期間

2021 年 4 月 (倫理委員会承認後) ～2028 年 12 月 31 日 (論文作成終了までの期間を含む)

3. 研究目的

入院、外来、あるいは様々な病気をお持ちの方の腎機能低下を来す原因を探索し、腎機能低下、慢性腎臓病 (CKD) の発症 (3 ヶ月以上続く推算糸球体濾過量 60ml/min/1.73m²未滿または蛋白尿)、急激な腎障害の進展、透析や腎移植などを必要とする末期腎不全の発症、推算糸球体濾過量の低下率などの各種腎臓に関する事象に関連する因子を見出すことを目的とします。

意義

CKD の進展による末期腎不全 (ESKD) 患者数は増加し続け、世の中では高齢化が進んでいます。また、悪性腫瘍を初めとして、様々な病気に対する治療の進歩の一方で、CKD の発症および進展に対してこれまでに認められなかった新たな危険因子となっています。CKD の発症および進展だけでなく、原疾患の経過、あるいは治療に対しても影響するようになっています。このように、腎臓に対する診療だけでなく、その他の臓器への治療内容や、その腎臓に対する影響を臓器横断的に、また、診療科横断的に、危険因子を効率的に探索する体制を構築することが現在求められています。

本研究は、日本全国の臨床研究中核病院の病院診療情報システムから臨床研究を実施するために必要な臨床データを効率的に抽出して、腎疾患を専門に診療する部門だけでなく他のご病気との関連を含めた領域横断的に研究を実施することが可能となることが期待されています。

なお、本研究同様のデータベース研究が日本腎臓学会を中心に進められており (J-CKD-Database)、2019 年 3 月時点で、全国の 15 施設で約 15 万人分のデータが蓄積されています。J-CKD-Database 研究は、日本腎臓学会に関連した、既存の腎臓の病気を対象とした研究であるのに対し、本研究では臨床研究中核病院における、領域横断的な研究を実施することを目指しています。臨床研究中核病院を構成する全国 12 病院の中で本研究に参加する施設から 1 施設当たり 1 万人分のデータが登録されることが見込まれ、最終的には 10 万人超規模のデータベース研究を実施することが期待されています。

4. 研究方法

各種腎臓に関する事象に関連する因子を見いだすために、診療目的で集めたデータを活用します。これを全国の臨床研究中核病院において同様の情報を匿名化した状態で集めて

分析を行います。その際に用いる分析方法は、従来の統計手法に加えて人工知能（AI）などを用いることもあります。

なお、この研究のためだけに、本研究の対象となる方々に、研究を目的とした新たに検査等を追加することはありません。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報として、病歴やその治療歴、検査データ、身長・体重などの身体情報、臨床検査値、造影剤を使用した画像検査・処置の有無、処置の内容、入退院情報、転帰、傷病名、手術、薬剤情報、透析等の腎不全治療に関する情報を利用させていただきます。

（この際、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人を特定する情報は研究に用いられません。）

6. 外部への試料・情報の提供

本研究では、名古屋大学がデータセンターとなって東北大学病院を含む日本全国の臨床研究中核病院から本研究の対象となり得る患者さんの情報を集めます。外部への資料・情報を提供する前に、カルテ番号を含む個人情報の代わりに新しく符号又は番号をつけて匿名化を行います。研究対象者と、この符号（番号）を結びつける連結表は、それぞれの施設で外部に漏れないように厳重に保管されます。また、連結表は研究データと別の場所に保管され、簡単に連結できないようにされます。データを保管する外付けハードディスク等（USBは使用しないこと）にはパスワードロックをかけ、盗難、持ち出し、損壊を防止するための対策も取られます。

匿名化した研究データは各施設で漏洩・混交・盗難・紛失等の防止のための配慮を行った上で保管し、連結表を用いた匿名化を施したのちに名古屋大学に提供されます。提供されたデータは名古屋大学で解析用データセットに加工し、必要に応じて共同研究機関である本学にも再度提供され本研究が実施されます。施設間のデータのやり取りは、暗号化などのセキュリティの担保されたメディアあるいは伝送路を用いて行うこととなっており、研究用データは情報セキュリティの担保されたサーバー内に格納し、研究実施時のみ利用されます。これらの研究データの分析は共同研究機関の間でのみ行われます。このときデータの提供は、特定の関係者（本研究の関係者）以外がアクセスできない状態で行われます。

7. 研究組織

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科	教授	丸山 彰一
北海道大学病院医療情報企画部	部長・准教授	遠藤 晃
東北大学病院メディカルITセンター	センター長・教授	大田 英揮
慶應義塾大学病院血液内科	専任講師	松木 絵里
国立がん研究センター中央病院医療情報部	副医療情報部長	向井 まさみ
東京大学医学部附属病院 臨床研究推進センター	特任講師	太田 実紀
岡山大学病院 医療情報部	教授	郷原 英夫
九州大学病院ARO次世代医療センター	助教	船越 公太
神戸大学医学部附属病院 臨床研究推進センター	特命助教	菅原 健二

8. 利益相反（企業等との利害関係）について

当院では、研究責任者のグループが公正性を保つことを目的に、情報公開文書において企業等との利害関係の開示を行っています。

使用する研究費は国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「Real World Evidence（RWE）創出のための取組み」（臨中ネット）です。

外部との経済的な利害関係等によって、研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態を「利益相反」と言います。

本研究は、研究責任者のグループにより公正に行われます。本研究の利害関係については、現在のところありません。今後生じた場合には、所属機関において利益相反の管理を受けたうえで研究を継続し、本研究の企業等との利害関係について公正性を保ちます。

この研究の結果により特許権等が生じた場合は、その帰属先は研究機関及び研究者等になります。あなたには帰属しません。

9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院における照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

担当者の所属・氏名：東北大学病院メディカル IT センター 井上 隆輔

住所：宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1

連絡先：022-717-7504

mitc-manager@ml.hosp.tohoku.ac.jp

当院の研究責任者：東北大学病院メディカル IT センター 大田 英揮

研究代表者：名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科 丸山 彰一

◆個人情報の開示等に関する手続

本学が保有する個人情報のうち、本人の情報について、開示、訂正及び利用停止を請求することができます。

保有個人情報とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した個人情報です。

- 1) 診療情報に関する保有個人情報については、東北大学病院事務部医事課が相談窓口となります。詳しくは、下記ホームページ「配布物 患者さまの個人情報に関するお知らせ」をご覧ください。（※手数料が必要です。）

【東北大学病院個人情報保護方針】

<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/privacy.html>

- 2) 1)以外の保有する個人情報については、所定の請求用紙に必要事項を記入し情報公開室受付窓口へ提出するか又は郵送願います。詳しくは請求手続きのホームページをご覧ください。（※手数料が必要です。）

【東北大学情報公開室】

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kokai/disclosure/index.html>

※注意事項

以下に該当する場合には全部若しくは一部についてお応えできないことがあります。

- ①研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②研究機関の研究業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- ③法令に違反することとなる場合